

失敗は「挑戦の証」

令和8年度が始まって1ヶ月です。どの学年の授業でも、学習に意欲的に取り組もうとする姿をみることができます。部活動や習い事なども一生懸命に取り組んでいるようです。GW中の各部の活躍もよく聞いています。ホームページでも紹介しています。見てくださいね。文武両道の精神で頑張っている皆さんを先生方も応援しています。

先月、桜木小学校の近くにある熊谷市立文化センターに行ってきました。4月に、プラネタリウム館がリニューアルオープンしたからです。投影機は最新。投影される星は1000倍に増え、1000万もの星が映し出されました。迫力がすごいです。ぜひ皆さんにも行ってほしいです。投影された「春の熊谷の夜空」では、冬の代表的な星座であるオリオン座を見ることもできました。オリオン座の最も明るい星「ベテルギウス」は、地球から600光年ほどの距離。これは光の速さで600年かかるということです。とすると、今私たちが見ているベテルギウスの輝きは600年も前に放たれた光ということなのです。600年前、日本は室町時代、世界は大航海時代です。今この時、放たれた光は、600年後の人が見ることになるわけです。壮大なスケールを感じます。

先月11日午前9時7分、アメリカなど4名の宇宙飛行士を乗せた宇宙船「オリオン」が、地球に帰還しました。宇宙船の名称「オリオン」は、先ほど話題にした「オリオン座」を由来にしているそうです。宇宙船オリオンは、月の裏側にまで到達し、人類が到達した最も遠い距離の記録を56年ぶりに更新しました。すごいことです。月の裏側から地球がのぼってくる映像「地球の出」を見た人もいるかもしれません。

ミッションを成し遂げた後、宇宙船オリオンの飛行士たちは、地上と交信をしています。その時、高校生へのメッセージを求められたワイズマン船長がこんな言葉を送りました。「人生で学んだ最大の教訓は、どれだけ成功したかではなく、どれだけ失敗したかだ」「困難に直面した時こそ立ち上がり、挑戦しなければならない」。

その言葉を聞いて、埼玉県出身の宇宙飛行士である若田光一さんが以前、「失敗は軌道修正のチャンス」とおっしゃっていたことを思い出しました。宇宙にとびだしていくのですから、これまでにどれほどの失敗があったかわかりません。その失敗の原因を検証し、軌道修正することが、今回の快挙に結びついているのだと思います。計画では、2年後の2028年に、人類がまた月面に着陸するのだそうです。挑戦を継続すれば、当然、数限りない失敗を積み重ねていくはずですが、それでも、挑戦を続けるのだと思います。2年後の月面着陸を楽しみにしていきましょう。

皆さんの学校生活にも失敗はつきものです。授業中でも、部活動でも、友達関係でも…失敗はたくさんあると思います。それでも、失敗は皆さんが挑戦していることの「証（あかし）」なのだと思います。失敗から目を背けず、失敗の原因を検証し、軌道修正すればいいだけのことです。どんどん挑戦してください。どんどん失敗してください。

5月全校朝会の講話を終わります。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣